

目次

- 巻頭言（水戸地方裁判所長）……………(1)
- 年頭のご挨拶、更生保護制度施行
75周年記念全国大会に参加して……………(2)
- 第74回社団法人作文コンテスト審査結果、
新任保護司としての出発……………(3)
- 第63回茨城県更生保護大会、
被表彰者のことば、他……………(4)(5)
- 令和6年度関東地方保護司代表者協議会
に参加して、県更女・県BBSだより……………(6)
- 自由往来、県功労保護司の会から、
保護司の異動（退任）……………(7)
- こんにちは、榮譽に輝く方々、他……………(8)

更生保護 いばらき

特集 第63回 茨城県更生保護大会

第162号

発行人

茨城県保護司会連合会
茨城県更生保護協会
水戸市北見町1の1
水戸保護観察所内
TEL/FAX
029-226-7034
FAX
029-303-5334
E-mail
iba-kenporen@sweet.ocn.ne.jp

学問の神様菅原道真公をおまつりする日本三天神

撮影者 齊藤 謙一（常総地区保護司）



おの
ごう
大生郷天満宮（常総市）

新年あけましておめでとうございます



水戸地方裁判所

所長 河本 雅也

皆様におかれましては、新たな思いを抱かれて新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様の更生保護に対する平素の広範なご活躍、ご尽力に対し、茨城県の裁判所を代表して深く敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

さて、刑事司法制度に関しまして、懲役及び禁錮の各刑を廃止して拘禁刑を創設するとともに、刑の執行猶予制度を拡充することなどを内容とする「刑法等の一部を改正する法律」が本年6月から施行されます。また、一昨年の5月からは、第二次再犯防止推進計画の下、現役保護司や学識経験者をメンバーとする法務省の検討会において、保護司の職務内容、活動環境、保護観察官との協働態勢等に関し多角的視点からの議論が行われ、昨年10月に法務大臣に報告書が提出されております。これらの大きな動きに加え、近年の再犯率等を併せて考えますと、罪を犯した人達の改善更生及び再犯防止を図っていくことの重要性はこれまでに増して強く認識されるようになっており、その社会復帰を支援する皆様の更生保護活動に対する社会の期待も高まっているものと思えます。また、裁判所としても、更生保護制度全般への理解を一層深めていく必要があると考えております。

近時、さまざまな変化を背景として地域社会の連帯意識の希薄化が指摘される一方で、災害支援等のかたちで社会的な連帯に参加し、またその連帯に共感することも増えております。このような社会の中において、今後とも、更生保護制度の充実に向けての皆様のご尽力をお願い申し上げます。

末筆ながら、新年が穏やかで幸多き年となりますことをお祈り申し上げます。

年頭のご挨拶



茨城県保護司会連合会
会長 小磯 実

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、健康やかに新年をお迎えになられたことと存じます。平素から更生保護活動に多大なるご尽力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、直近の課題は保護司のなり手が不足していることです。本県では県を始めとする行政機関の協力により、減少傾向はやや改善いたしております。私たちも対象者に共感的で寄り添う更生保護の取り組みを目指し、地域社会の理解や信頼を得ていく必要があります。

犯罪は減少傾向にあります。保護司の負担は軽くなっている訳ではありません。保護司の複数担当制や面接場所を増やす等の取り組みも進んでいます。

今年も関連組織と連携を一層深め、安心安全な住みよい地域社会を作るため、皆様のご協力を心からお願い申し上げます。皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、新年のご挨拶と致します。

○茨城県保護司会連合会

会長 小磯 実

○取手地区保護司会(県副会長)

会長 横張 克博

○鹿島地区保護司会(県副会長)

会長 木滝 巖

○東地区保護司会(県副会長)

会長 橋本 和雄

○水戸地区保護司会(県副会長)

会長 五十嵐 博

○西地区保護司会(県常任理事)

会長 高橋 亮一

○東茨城地区保護司会

会長 菊池 広己

○那珂地区保護司会

会長 小澤 一好

○笠間地区保護司会

会長 生駒 敏文

○日立地区保護司会

会長 佐々木 秀二

○北地区保護司会

会長 鈴木 和栄

○久慈地区保護司会

会長 森 一史

○土浦地区保護司会

会長 石毛 一美

○石岡地区保護司会

会長 小松崎 茂一郎

○つくば地区保護司会

会長 櫻井 一美

○いなしき地区保護司会

会長 岩淵 靖子

○龍ヶ崎地区保護司会

会長 北澤 修

○なめがた地区保護司会

会長 前島 達男

○常総地区保護司会

会長 小磯 実

○猿島地区保護司会

会長 鈴木 隆

○監事

関根 正彦

○事務局長

阿久津 恵美子

○事務局書記

堀江 萌



(更)茨城県更生保護協会
理事長 鈴木 蒼志男



(更)有光苑
理事長 大貫 重信



(NPO)茨城県就労
支援事業者機構
会長 宮崎 一雄



茨城県更生保護女性連盟
会長 鈴木 みち子



茨城県BBS連盟
会長 夢沼 礼敬



水戸保護観察所
所長 小出 有二
ほか職員一同

更生保護制度施行75周年 記念全国大会に参加して

つくば地区保護司会
坂入 誠

令和6年10月2日更生保護制度施行75周年記念全国大会が東京丸の内、東京国際フォーラムにおいて開催されました。

今回法務大臣表彰にあずかり県内保護司の皆さんと共に参列させていただきました。

残暑を感じるなか、大会では千葉景子日本更生保護女性連盟会長から開会の辞のあと参加者全員で物故者に対する黙禱・国歌斉唱があり、谷垣禎一全国保護司連盟理事長から式辞が述べられました。

式辞の中で谷垣理事長からは滋賀県大津市で発生した保護司殺害事件に触れられ、事件への怒りと更生保護活動に当たられる保護司はじめ関係各団体等への感謝の意、更に昨今の立ち向かう課題解決に向けた施策推進計画等について述べられました。

来賓として参列された敵本直美検事総長からは昨今の社会情勢について、更生保護に携わる出席諸団体への御苦労に対し謝意が述べられました。

続く表彰式では前日任用された牧原法務大臣からの大臣表彰

はじめ功労のあった各分野への表彰者への伝達が続きました。

当日は第2部として記念講演があり、会社の社風として更生保護への深いご理解のもと諸方面での継続した活動の事例をトヨタ自動車副社長早川茂様から講話をしていただきました。

この講演会開催にあたり、過年水戸保護観察所長としてご尽力をいただきました押切保護局長様から挨拶がありました。

局長からは職員として採用された当初から自ら抱いていた更生保護に対する熱意込みを話され、同時に常に私達保護司への篤い配慮を感じました。

特につくば地区保護司会では昨年日帰り研修として法務省への研修を実施した際にも局長には時間を割いて終始私ども保護司会に同席、案内をしていただき感謝している次第です。

講演会終了後、わずかの時間でしたが押切局長に再びお会いでき、会話できたことが良き思い出となりました。



押切保護局長(左)と大会会場にて

第74回「社会を明るくする運動」 作文コンテスト審査結果



第74回「社会を明るくする運動」茨城県推進委員会の啓発活動の一環として作文コンテストを実施したところ、県内から小学生6139点、中学生8935点の計15074点と多くの作品の応募をいただきました。関係各位の皆さまの御協力に感謝いたします。

中央・茨城県推進委員会の人賞作品は次のとおりです。各賞入賞の皆さま、誠にありがとうございました。

中央推進委員会入賞

◎小学生の部

【優秀賞】茨城県保護司連盟理事長賞
鹿嶋市立大同東小学校
6年 池田 彩希

◎中学生の部

【優秀賞】全国保護司連盟理事長賞
土浦市立土浦第四中学校
9年 岡田 陽菜

茨城県推進委員会入賞

◎小学生の部

【最優秀賞】茨城県知事賞(社会を明るくする運動)茨城県推進委員会委員長賞
守谷市立黒内小学校
6年 木村 莉子

◎中学生の部

【最優秀賞】茨城県知事賞(社会を明るくする運動)茨城県推進委員会委員長賞
守谷市立黒内小学校
6年 池田 彩希

◎小学生の部

【優秀賞】茨城県教育長賞
鹿嶋市立大同東小学校
6年 池田 彩希

◎中学生の部

【優秀賞】茨城県教育長賞
石岡市立石岡小学校
6年 飯塚 小百合

◎小学生の部

【優秀賞】茨城県教育長賞
つくば市立島名小学校
5年 眞弓 龍大

新任保護司としての出発



なめがた地区
河嶋 賢一



水戸地区
金澤 竜司

教職員を定年退職した後、ドイツの日本人学校に派遣されました。帰国して間もなく、現職時代お世話になった先輩の先生から貴方の住んでいる地区の保護司がやめるから、引き受けてほしいとの依頼がありました。

少し悩みましたが、最後に勤務したのが自分の住んでいる地区の中学校であったということもあり、何か恩返しがしたいという気持ちがあったので、保護司の仕事を引き受けました。

自分が住んでいるのはアパートや公営住宅が比較的多い地区で、家庭的に恵まれない子供たちもいます。そういった子供たちが成長する過程で道を踏み外すこともあります。

人間的にもまだまだ未熟な自分には十分なことができるかどうか不安があります。しかし、引き受けた以上、微力ながらそういった人達のために自分にできることを一つ一つ行っていくと考えることができます。どうか皆様方のご指導やご支援をよろしくお願い申し上げます。

私は以前勤めていた茨城県は、再犯防止推進計画を策定し、誰一人取り残さない社会の実現に向け、国・地方公共団体・民間の緊密な連携協力を確保して再犯防止施策を総合的に推進してまいりました。

その施策の一つとして、保護司の確保を重点課題に位置づけ全国的に保護司の担い手の減少が進んでいることから、保護観察所や保護司会連合会と連携して、取り組んでまいりました。

私は、その担当として、県職員、市町村職員や一般県民に向けて、保護司活動の周知や理解促進に努めてまいりました。

私も、自らが、保護司を受嘱しなければ働きかけができないのと思い、地域社会に貢献したいとの気持ちから、インターンシップに参加させていただきました。先輩方のご指導を賜りますよう、よろしく申し上げます。





受彰者代表謝辞
久慈地区保護司会 森 一史会長



壇上での受彰の様子



開会のことば
茨城県保護司会連合会 高橋亮一常任理事



閉式のことば
茨城県保護司会連合会 橋本 和雄副会長



大会風景



シャンソン歌手
安達由美氏

更生保護制度施行75周年記念第63回茨城県更生保護大会が令和6年11月8日に、水戸市ザ・ヒロサワ・シティ会館（県民文化センター）で開催されました。その席上、法務大臣表彰の受彰の栄に浴し、身に余る光栄と感激しております。

このたびの受彰は、保護観察所の先生方や保護司会諸先輩方とともに活動する更生保護関係者、また、地域の皆様のお力添えやご支援があつてこそ成し遂げられたものと深く感じており、改めて感謝を申し上げます。

平成19年3月25日に保護司を拝命以来今日まで、実に18年もの間、保護観察所、保護司会連合会、地区保護司会、並びに更生保護に関わる皆様方の温かいご指導ご支援の元、微力ながら保護司としての役割を担って参りました。

今後、さらに研鑽を重ね、犯罪や非行をした人たちの改善更生と、地域の犯罪予防活動に力を尽くして参りたいと存じております。



久慈地区保護司会
会長 森 一史

この度、全国保護司連盟理事長表彰を受彰することになり、身に余る光栄と感激しております。これも偏に地区保護司会の先輩や同僚の皆様のご指導の賜物と、改めて感謝とお礼を申し上げます。

保護司を拝命したのは、平成18年5月で、恥ずかしいことですが、私はその時点で、保護司が何であるかわかりませんでした。保護司の依頼は近所の知り合いからでしたが、難しい事ではないからと言われ、気軽に受けてしまったのです。初めての保護司会で「社明」とか「更女」とか、聞いた事がなくて理解できませんでした。

新任保護司研修を受けて、ようやく保護司の内容がわかるようになったりましたが、保護司会の会合を何度か受けて、ある事に気づきました。それは先輩保護司の人たちの話し方や人との接し方が、私がそれまで関わってきた人たちと違うことです。ゆっくり話すし、穏やかな雰囲気でした。大袈裟ではなく、何か別世界に入ったようでした。



常総地区保護司会
田中 喜代次

日頃より地域の皆さまには、カスミ常陸太田店をご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。

当店は、2016年のオープン以来、商品やサービスで、地域のお客さまの毎日の食卓に彩りを添えるお手伝いをさせていただいております。お客さまとのふれあいを大切に、地域のコミュニティの場としてもご利用いただき、お客さまの暮らしが「より楽しく、笑顔に、便利に、そしてより豊かに」、皆さまに愛され喜ばれるお店づくりに努めております。

当店は、「社会を明るくする運動」の啓発活動の場としての会場提供をさせていただいております。

そのご縁からこの度、「水戸保護観察所長感謝状」をいただく名誉を賜り、従業員一同、大変光栄に思っております。

今後も地域の皆さまのご指導を仰ぎながら、地域の皆さまとともに歩んでいけるスパーとして、少しでもお力になれるよう取り組みでまいります。



水戸保護観察所長感謝状
カスミ常陸太田店
へ参加して

第63回 茨城県更生保護大会

令和6年11月8日 ザ・ヒロサワ・シティ会館



法務大臣表彰



叙勲・褒章



式 辞
茨城県保護司会連合会 小磯 実会長



祝 辞
水戸市長代理 福祉部 小林秀一郎部長



祝 辞
関東地方保護司連盟 下妻 久男常務理事



祝 辞
茨城県知事代理 福祉部 深澤 泰子次長



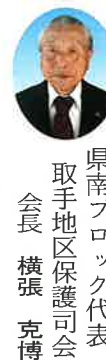
大会宣言
茨城県更生保護女性連盟 鈴木みち子会長



祝 辞
水戸家庭裁判所 前田 巖所長



祝 辞
水戸地方検察庁 林 享男検事正



県大会のご協力に感謝

11月8日、水戸市ザ・ヒロサワ・シティ会館にて更生保護施行75周年記念・第63回茨城県更生保護大会が、紅葉も進む日本晴れの中間催されました。

前田水戸家庭裁判所長、林水戸地方検察庁検事正等のご来賓を始め、多数の関係者各位のご臨席を賜り、約1,100名が集う大きな大会となりました。

式典に先立つオープニングセレモニーでは、シャンソン歌手安達由美さんが参加者の拍手を呼び込み、明るく素敵な歌声が会場をつつみましました。

式典に入り、叙勲・褒章者の受章披露後、永年に亘り更生保護活動に功労のあった443名の方々に、法務大臣表彰、全国保護司連盟理事長表彰の他各種表彰者の顕彰が滞りなく行われました。顕彰後、鈴木茨城県更生保護女性連盟会長より力強い大会宣言がなされ、全会一致により確認された後、盛大なる万歳三唱により盛会裡に幕を閉じることが出来ました。

本大会の開催にあたり、準備運営にご尽力頂きました。すべての関係者の皆さまに心より御礼と感謝を申し上げます。

令和6年度関東地方保護司
代表者協議会に参加して



東地区保護司会
佐藤 百合子

第38回関東地方更生保護大会は、令和6年10月25日、長野県松本市の「キッセイ文化ホール」に於いて、総勢850人の人が参加して開催されました。更生保護制度75周年記念大会ということもあり関東地方1都10県の更生保護関係者が一堂に会し、このような大きな大会になったのだと思います。

10月下旬の長野県ということですが、紅葉にはほど遠くとも暖かな一日でした。

松本駅からシャトルバスに乗車し会場へ。バス乗り場、駅の改札口と松本地区保護司会の方々が早い時間より案内に立ってくださいました。会場へ到着すると手際の良い受付、ロビーには、長野県の名産売場、矯正施設の方々の手作り品コーナー、地元ボランティアさんのパン等の売り場と所狭しと並べられていました。

今回の更生保護大会で最も楽

県更女だより
新たな挑戦



那珂市更生保護女性会
会長 綿引 けい子

那珂市更生保護女性会は、会員31名で活動しています。活動は主としてほっとけない運動として始めた茨城学園生との交流会は、平成18年から実施し、その後福祉体験もしています。目的は、家庭と家族に問題を抱えて厳しい指導と規律の中で生活している入園生に私達の活動を通して家庭の温かさを感じとり、また福祉活動を通して思いやりのある強い精神力を養ってほしいという趣旨のもと実施しています。交流会は年4回実施に実施、食事や菓子作りをし、食事後、将来の夢等を語っています。



会話が弾む交流会

県BBSだより

対面の強み、オンラインの強み



茨城県BBS連盟
会長 蓼沼 礼敬

お世話になっております。新型コロナウイルスの流行以降、長い間オンラインで開催していた地区の定例会ですが、今年度に入り、ついに対面で開催することが増えてきました。直接顔

を合わせることで取れるコミュニケーションも、特に社会人会員にとっては、学生会員との関係を深める良い機会となっています。

10月の水戸地区の対面の定例会では、参加者の過半数が今年度入会した会員であり、コロナ前の懐かしい感覚を覚えました。活動の人数制限や学業との両立もあるなかで各々が活動に参加しており、いまだに高いモチベーションを維持している学生が多いのは嬉しい限りです。ここ数年で行事を運営する側として会員が関わる機会がめっきり減ってしまったので、その経験の場を学生に与えられるようにしたいと考えています。



自由往来

たくさんの仏様

東茨城地区保護司会
深瀬 隆純

私が住職をしている寺は大洗の町外れにある。あの大震災で本堂の瓦屋根が崩落し、銅板で葺き替えた。同時に、間もなく開創600年を迎える寺のご本尊がかなり傷んでいた。計3体の修復も行った。殊に大日如来は腕が欠損し胴体を針金で縛るといふような惨状であった。が見違えるほど綺麗に甦った。

それからの縁である。私は水戸市在住の画家岩田民治先生と知遇を得た。間もなく岩田先生の35回目の個展があり、大日如来が出品されていた。私の寺は真言宗智山派に属しており、大日如来は真言密教の中心的仏である。私がこの大日如来を我が寺にお迎えしたのは自然な成り行きだった。

勿論この作品は買い上げたのだが、先生は翌年そのお礼として、もう一点大日如来を寄贈された。それで金剛界と胎藏界の大日如来が揃ったことになる。



「釋尊」岩田民治作

その後...

猿島支部
支部長 飯田伊一郎

保護司を退任して10年になります。今は健康の為毎日ロードバイクで1時間位走っております。

11人のグループで毎月1回自転車道を積んで車で1時間位の移動場所から40キロ前後走ります。4月は筑波リッパロードの桜並木、桜満開の中を走り、5月は玉造からサイクルーズで潮来に、あやめ娘の歓迎を受け霞ヶ浦リッパロードで帰路に、7月は野田清水公園から江戸川沿いを歩く。寅さん記念館を見学。10月は渡良瀬遊水池周辺、当日は大学生達のトライアスロン大会で、1周7キロ6周コースを40〜50キロのスピードで、直線はもちろんのこと、90度のコーナーも少しもスピードを落とすことなく通過するのは驚き感動しました。女子の部もユニフォームを見なければ解らない体型の女子達が猛スピードで走っていました。

飛田 隆久(水戸)
大山 公夫(東茨城)
和田 雅治(東茨城)
西野 晋哉(東)
荒川 東海男(日立)
白石 古登(久慈)
出沼 泰子(土浦)
松井 幹美(土浦)
元木 正志(土浦)
杉野 五郎(龍ヶ崎)

保護司の異動

退任26名(敬称略)



あやめ娘の歓迎を受けて

フェスティバルが盛大に行なわれており、美味しいカレーを堪能してきました。

最近では、若い人達とグラウンドゴルフを毎週日曜日に楽しむことが増えました。

田坂由美子(龍ヶ崎)
神立 富子(取手)
中田 邦雄(なめがた)
飯島 幸夫(鹿島)
田口 彌(鹿島)
小河原まこと(西)
野口 祐一(西)
三輪 巴(西)
青木 徳士(猿島)
須永 一(猿島)
渡辺美智子(猿島)
年齢上限該当(6・11・29付)
高田 信利(東茨城)
谷田 隆(東茨城)
大高 幸夫(笠間)
齊藤 秀幸(いなしき)
鶴見 徹也(常総)
任期満了(6・11・29付)



年齢上限で退任された皆様

こんにちは

No.94

「身近な頼れる先輩」

日立地区功労保護司
齋藤信之氏とお会いして

功労保護司である齋藤信之さんにお話を伺ったのは、紅葉が盛りとなった11月の下旬でした。

サポートセンターにご足労いただき、たくさんのお話を聞かせて頂きました。

齋藤さんが保護司になられたのは平成8年で、以後退任される令和2年まで、24年間活動されました。令和元年には藍綬褒章を受章されております。

齋藤さんは会社にお勤めの時から、子ども会や青少年育成の活動に関わっており、このことが保護司になったきっかけですと話されていました。

保護司としての活動の進め方などについてもお伺いしました。

対象者との接し方、片意地張



自作油絵と齋藤信之氏

らず、真に相手に寄り添うこと、そして、保護司は難しい専門的な対応は、専門の方にお願います。言ってみれば、多くの社会資源の活用、力をお借りすることと話されていました。

齋藤さんは、保護司活動と並行して民生委員活動もされ、この活動を通して多くの福祉関係者との出会いが、保護司活動に大いに役立ったとのことでした。「人との出会いを大切に。」が齋藤さんの原点にあるとのことでした。

趣味の油絵は、会社時代のお仲間と現在も続いている、毎年展示会を開いているとのことでした。さらに、地域の異業種のお仲間との茶話会、「お茶のみ自由に語る会」も次回で700回を迎えるとのこと、本当に楽しそうに語ってくれました。

最後に、長い間、事務局を担う中で、特に、印象深く苦労したことなどお聞きしました。

一つ目は日立市で開催した茨城県更生保護大会。準備から当日を迎えるまでの思い出。二つ目は、手作り、日立地区サポートセンターを開設したこと。三つ目に、映画「君の笑顔に会いたくて」の上映が盛会裏に終わったことを挙げられました。

齋藤さん、これからもお元気で、より一層のご指導をお願いいたします。

(日立地区保護司会 小室秀昭 記)

令和6年秋

荣誉に輝く方々

叙勲

☆瑞宝双光章

海老澤正男 殿(石 岡)

褒章

☆藍綬褒章

吉野 由昭 殿(水 戸)

大山 公夫 殿(東茨城)

木名瀬英俊 殿(石 岡)

飯島 幸夫 殿(鹿 島)

敬 申

次の方々のご逝去に接し、生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

山中 秀剛殿(龍ヶ崎・功労保護司) (6・9・12)

會澤 康文殿(日立・保護司) (6・11・20)

勝山 丈夫殿(那珂・功労保護司) (6・11・29)

落合 勝雄殿(結城・功労保護司) (6・12・24)

佐山 松壽殿(鹿島・功労保護司) (6・12・25)

高橋九郎殿(筑西・功労保護司) (6・12・29)

勝間田 實殿(日立・功労保護司) (6・12・31)

新任保護司紹介

(敬称略 22名)

雨谷 嘉洋(水 戸)

根本 正道(水 戸)

古谷 勉(水 戸)

渡邊 眞也(東茨城)

赤津 光司(日 立)

鈴木 茂孝(日 立)

菊池 弘(久 慈)

山崎 仙一(久 慈)

岩崎 芳道(土 浦)

金子 敏久(土 浦)

高安 佳子(土 浦)

塙 明浩(石 岡)

林 まち子(つくば)

市村 美絵(いなしき)

松村 広志(いなしき)

八木 峰男(なめがた)

坂尾志津子(鹿 島)

三浦 幸子(鹿 島)

吉原 克美(常 総)

高嶋 幹夫(西 武)

荒木 準人(猿 島)

猿橋 正男(猿 島)

(6・11・30付)

あ とう が き

地区保護司会主催の県外研修で横浜刑務所の施設見学に参加しました。

所内では、塵一つない整頓された環境の下、刑務官の号令一つで整然と行動する収容者の姿を目にしました。非日常を体験

した対象者が口にする「もう決して刑務所へは…」と言う言葉が身にしみて感じられました。

今年6月には、刑法改正により刑罰の目的を「懲らしめ」から「立ち直り」に移すことが示されました。私達保護司にとってその支えとなるよう一層精進することが求められています。

第162号の発行に際し、多くの方に原稿執筆のご協力いただき改めて感謝申し上げます。

(久松 記)

〈編集委員〉

◎篠原 光 ○佐川憲一郎

菅谷 京子 久松 栄

関 好太郎

◎編集委員長 ○編集副委員長
〈編集協力委員〉

小坪 健二(校正協力)

鈴木 浩(校正協力)

川上 裕康 佐々木 薫

森 よし江 塙 克也

木村 光利 志賀 聡

松井 泰壽 渡辺 信行

押田 達也 麻生 勇治

秋山 誠 飯田 道子

千葉 道子 小原よし江

〈事務局〉

企画調整課長 鈴木真寿美

企画調整課保護観察官 大羽恵津子

県保連事務局長 大津 辰夫

